



(社) 日本粉体工業技術協会

最近の 5 年

2001（平成13）年 ～ 2006（平成18）年

社団法人
日本粉体工業技術協会



(社) 日本粉体工業技術協会

最近の 5 年

2001（平成13）年 ～ 2006（平成18）年

社団法人
日本粉体工業技術協会

目 次

1. (株)日本粉体工業技術協会 最近の5年	2001(平成13)年～2006(平成18)年	1
2. 主要事項年表	2001(平成13)年3月1日(木)～2006(平成18)年3月31日(金)	8
3. 会員数の推移		11
4. 粉体工業展		11
5. 分科会活動		12
6. 委員会の推移		13
7. 協会役員		14

(社)日本粉体工業技術協会 最近の5年

2001（平成13）年 ～ 2006（平成18）年

はじめに

21世紀の頭初となるこの5年間は、2001年9月11日のニューヨーク・ワールド・トレード・センターなどへの同時テロに始まる動乱が米国を中心に世界中を巻き込み、アフガニスタンよりイラクに広がった戦乱は勢いを収めつつも今なお終息していないし、国内でも平成13年4月、小泉純一郎氏の首相就任に始まる小泉改革により、大きな変動に揺さぶられ、緊張の下に過ごした期間となった。小泉改革は郵政選挙で信認を確かめたあと、ひとまずの成果を収めて本年9月に後継の安倍内閣に移行した。当初デフレへの転落を気遣われていた国内景気は、自動車・素材産業など大企業主導の業績回復で曙光が見え、金融不安も克服される見込みとなった。中国経済の活況は国内経済にも広く影響を与え、中国と関係の深い企業はそれらに対応されている。当協会は続いた不況の影響を受けて、法人会員数の減少に歯止めが掛からない状況が続いていたが、2006（平成18）年に入り増加の兆しが見え始めており、景気の上向きを背景に新しい動きを始め、変わる環境に対応して新しい展開への体制を整えた。将来への希望を持ってこの5年間に振り返ることが出来るのは、この上ない幸せである。

協会体制の変更

役員改選期半ばであったが、2001年5月第20回通常総会で、天野会長の辞任を受けて会長に就任された土井 修会長は、天野前会長の改革の成果を十分に活用し、委員会の業務分掌を明確にし、協会業務のIT化を積極的に進め、事務の効率化

を計るなど、協会内部の統制に力を尽くされた。

2004（平成16）年5月第23回通常総会の役員改選期にあたり、当協会では初めての事となった理事の投票による会長選出が行われ、土橋健夫氏が新会長に選出された。土橋会長の下で、理事より5名の常務理事を選出し、従来の協会幹部である、会長、副会長、専務理事、事務局長とともに、新たに常務会を編成して、協会運営の諸事項決定について、長期の展望のもとに広い範囲の意見により、常務会で協議を行なった後に、理事会に計られることになった。また、次の年2005（平成17）年の第24回通常総会以後、京都と東京の両事務所の業務分掌を変更し、京都を協会本部と呼んで協会の運営業務全般を担当し、東京は官庁や関係委員会との連絡業務を担当し、それぞれに専務理事をおく、2専務理事制をとることになった。

2006（平成18）年5月第25回通常総会において、土橋会長から江見 準氏に会長が交代された。久しぶりの学界出身の会長である。上記の体制で新会長の下、順調に協会の運営が進められることと期待される。

協会旗の制定

2006（平成18）年春、エンジ地に協会名とロゴを白く染め抜いた協会旗が作られ、協会行事に活用されている。

分科会活動の推移

1983（昭和58）年に活動を始めた焼成・反応分科会、1992（平成4）年よりのシミュレーション分科会のふたつは、2001（平成13）年をもって活

動を終えた。新たに、微粒子ナノテクノロジー分科会が同年10月より活動を開始した。

この5年間の各分科会活動より、定例の分科会以外の特筆される行事を取り上げると、**粉碎分科会**では、2005（平成17）年、この分野の最新技術情報を網羅した叢書「先端粉碎技術と応用」A4版683頁を上梓し、これを教科書として専門講座を開催した。**集塵分科会**は通算百回記念の分科会を2004（平成16）年5月に開催し、関連技術の展望を行い、功労者の表彰をした。また、2005（平成17）年には、粉体工業展・大阪2005の折に、高温ガス精製国際会議を開催し海外より75名、国内より100名の参加者を集めた。**造粒分科会**は2004（平成16）年、コーディネータの名を冠して関口寺子屋造粒教室を5回集中的に行い、造粒技術の発展動向とその理論・実験の総括的検討を行った。**計装測定分科会**は、検定用粒子の実用検討を行い、2004（平成16）年の販売開始につながった。**粒子加工技術分科会**は2004（平成16）年5月、台湾・新竹で2日間、中日粒子設計シンポジウムを開催し、日本より81人、シンガポールより3名、台湾より210名の参加者を集めた。**輸送分科会**は、2003（平成15）年に3日間の専門講座「解り易い輸送の基礎知識と設計、トラブル対策」、2004（平成16）年に専門講座「粉塵爆発の危険性と事例・対策」を開催した。**流動化分科会**は2004（平成16）年に**環境エネルギー・流動化分科会**と改称したが、2001（平成13）年より隔年にガス化溶融炉シンポジウムを開催し、国内各メーカーを集めて各々の経験を開陳し討議する機会を設けている。**晶析分科会**は国際粉体工業展の折、幕張メッセで、2002（平成14）年、2004（平成16）年に国際粉体技術フォーラムを開き、外国より専門家を招いて討論をしている。

分科会活動で最近目立ってきたことは、合同分科会が増えたことである。目新しいテーマに対する会員の関心に応えると共に、関連する技術が従来の範囲を超えて進展している事情によると理解される。新しい技術に対する模索が新しいプロジェ

クト型分科会の創設につながれば幸いである。

毎年1月末あるいは2月初めに開催されていた、全分科会のコーディネータと代表幹事、協会の関係者が一堂に会する分科会連絡会議は、2004（平成16）年に、分科会運営委員会の主導によって、各分科会相互の連絡と討議を重視する新しい方式—各分科会相互の話し合いの時間を十分に取る時間割—に切り替えられた。これは合同分科会の企画を助ける作用もある。この回の成功により以後はこの方式により連絡会議を運営することとなった。また、毎年7月頃、関西、関東地区ごとに開かれていた分科会代表幹事会議は、2004（平成16）年以降廃止された。

2005（平成17）年7月には、分科会運営委員会により分科会実務担当者に対して、現在の問題点を把握するため、アンケートが実施され、集約結果を「粉体と工業」誌2005（平成17）年12月号に報告された。分科会活動の海外への広報のため、Advanced Powder Technology 誌上、毎号1ページで各分科会の紹介を2003（平成16）年より始めたが、2006（平成18）年で一巡した。

委員会の推移

2001（平成13）年、情報ネットワーク委員会が廃止され、総務委員会が発足した。**総務委員会**は前年度に廃止された広報委員会、活性化委員会の業務を継承し、更に、協会全般の総務事項に留意する。情報ネットワーク委員会で検討されていた協会IT化の推進も、総務委員会の所管となり、ワーキンググループにより会員専用ホームページの立ち上げや、標準粉体ホームページの全面改訂などが進められた。

2005（平成17）年、名古屋粉体工業展委員会、中国専門委員会が発足した。**名古屋粉体工業展委員会**は従来、粉体工業展開催のたびに臨時委員会として編成されていたが、名古屋粉体工業展を2回開催して以後常置委員会となった。**中国専門委員会**は海外交流委員会傘下の小委員会として発足

したが、毎年開催の上海国際粉体工業展への協会ブース出展、参加訪問会員の世話や中国顆粒学会への対応など、最近とみに盛んになった中国関係案件への対応に、頼られる存在となっている。

2000（平成12）年度より実施されている、常置委員会、規格・標準委員会、臨時委員会、特別委員会の区分は、引き続き実施されている。

粉体工業展の推移

偶数年の国際粉体工業展は2回、奇数年の粉体工業展・大阪は3回、第2回となる粉体工業展名古屋2003がこの期間に開催されている。低迷気味だった景気動向にもかかわらず、出展社、来場者ともに安定あるいは微増傾向にある。東京・大阪ともに、粉体工業展と併催する協会諸機関開催のイベントが増えているのは好ましい。粉体工学会・秋期研究発表会の粉体工業展との同時開催は2000（平成12）年より始まり、毎年東西両展とも定着した感がある。粉体工業展初日夕刻の開催記念レセプションに粉体工学会の参会者も参加されるのは、両者にとり良い交流の場となっている。粉体工業展ごとに学生ツアーを催し、個人会員の先生方の研究室の学生や、粉体と関係ある研究をされている大学の学生たちを招待して、粉体工業界への理解を若い世代に植えつけようという努力が'98国際粉体工業展以後、人材育成委員会のお世話で継続されているが、ベテランのガイドによる展示会場内ツアーなど、会場に適した趣向のもとに成果を挙げている。

2002国際粉体工業展に晶析分科会が始めた国際粉体技術フォーラムは、回を重ねるごとに参加される分科会が増えてきて、ラウンド・テーブル・ディスカッションを開くなど内容が豊かになってきた。2004国際粉体工業展にはISO/TC24/SC4の微粒子計測に関する国際会議、粉体工業展・大阪2005では第6回高温ガス精製国際会議が関連展示会とともに同時開催されるなど、粉体工業展との相乗効果を持つ国際会議が増えてきたことも喜

ばしいことである。粉体工業展・大阪2005では初めて「ナノパーティクルテクノロジー展示ゾーン」が開設され、26団体よりの出展があり好評であった。

名古屋での粉体工業展は、1999（平成11）年に始まり、第2回が前回と同じ吹上ホールで、前回と同じ最新科学機器展、計量計測総合展に加えて、液体清澄化技術展2003と共に開催された。以後2005（平成17）年に名古屋粉体工業展委員会が常置委員会として発足し、2006（平成18）年4月に、場所を金城埠頭のポートメッセなごやに移し、中部パックと共催で名古屋粉体工業展2006が開かれることとなった。

各地の粉体工業展の名称は、歴史的な経緯により各粉体工業展で多少ニューアンスの異なる呼称となっていたが、2007（平成19）年より、下記に統一することになった。

開催場所	名称	実行委員会名
東京	国際粉体工業展東京2008	東京粉体工業展委員会
名古屋	粉体工業展名古屋2008	名古屋粉体工業展委員会
大阪	粉体工業展大阪2007	大阪粉体工業展委員会

技術情報交流懇話会

1998（平成10）年12月に第1回金曜会、1999（平成11）年2月に第1回水曜会が始まり、火曜会（東京）、水曜会（名古屋）、木曜会（大阪）、金曜会（福岡）と出揃うことになった。

木曜会は、2002（平成14）年12月に150回を迎えたのを記念して、当番会社 ホソカワミクロン（株）のアイデァで、「協会のこれからと産学連携のあり方」をテーマにする、近畿経済産業局 松本敏明産学官連携推進室長の基調講演と、命尾副会長、岡田英雄日本工業新聞社大阪代表、土井会長、向阪大阪府大名誉教授（発言順・役職当時）をパネラーに細川悦男社長の司会による、パネルディスカッションが開かれた。更に2003（平成15）年以後、従来年6回奇数月開催であった木曜会が、3月、5月、9月、12月の年4回開催に変更になっ

た。

火曜会は1月と2月以外の偶数月の年6回、水曜会、金曜会は約四ヶ月おきの各年3回のペースで開催されている。2005（平成17）年度の各会合への平均出席者数は、火曜会64名、水曜会51名、木曜会58名、金曜会29名であり、各地域の会員と協会、個人会員と法人会員、入会候補者などをフェイス・トゥー・フェイスで繋ぐ重要な機会であるという位置付けは従来と変わらないし、期待される機能を十分に果たしている。毎回、当番に当たられた会社には大きな負担を掛けながらも、各々特徴のある趣向により参会者を楽しませ、交流の実を挙げている。

営業・管理部門の若手のつどい

1999（平成11）年3月に第1回が開かれた40歳以下の営業・管理部門の若手のつどいは、年3回、本郷・ホテル機山館で、2002（平成14）年度以降は、そのうち1回は関西地区で開催されている。毎回目新しい趣向の企画を凝らし、平均40名の参加で若手の啓発と懇親に役立っている。

海外交流

タイ国

タイ粉体工学センター TPTC は2002年11月、チュラロンコン大学の粉体工学・材料加工研究室とともに同大学の Center of Excellence in Powder Technology に指定された。2004年4月に TPTC は創立10周年を経過したので、その歴史を Powder Technology Took Root in Thailand: The First Decade of Thai Powder Technology Center なる一文にまとめ、2004年12月に英国マンチェスター近くのプレストンにある中部ランカシャー大学で開かれた第2回「経営と技術移転に関する国際会議」にチュラロンコン大学のタワチャイ教授が報告した。TPTC が定期的に行っているセミナーには、その時々要請に応じ

て、海外交流委員会が講師の派遣を行っている。

2004年8月、TPTC 創立以来の中心人物であるウィワット教授は、新設された国立ナノテクノロジーセンターのダイレクターに栄転された。TPTC はタワチャイ教授が引き継いで運営している。

APT アジア粉体工学シンポジウム

バンコックで開かれた APT2000第1回アジア粉体工学シンポジウムに続く APT2003第2回アジア粉体工学シンポジウムは2003年12月マレーシア・ペナンで開催され、協会より土井会長以下28名のツアーが参加、日本よりは71名、その他各国よりも合わせ合計174名の参加者を集めた。180の講演が5セッションに組織され、講演者の欠席もかなりあったが、キーノート講演などはレベル高く、地域の進歩を実感させるものであったとウィワット教授は報告されている。協会のツアーはシンポジウムの後、ペナンで操業している花王(株)の関連会社3社を見学し、クアラルンプール近くの有名な蜚を見た後帰途に着いた。次回の APT 2007は北京で開催の予定である。

中国

2000年4月に中国珪酸塩学会と中国非金属鉱物産業会社の主催で、初めて粉体工業関連の展示会 CHINA POWDER 2000が北京で開催され、第2回が2001年4月、第3回が2002年3月に開催された。第3回の CHINA POWDER 2002には協会ブースが提供され、海外交流委員会の藤井副委員長（ホソカワミクロン）が、協会と国際粉体工業展2002の広報をした。

2002年4月北京で開かれる第8回全国粉体工学会議に、古くに交流のあった中国顆粒学会よりの招待状が届いた。1988年中国顆粒学会と初めての交流を持ったものの、その後の先方の詳しい事情もわからず、将来共に安定した交流相手を現地で確かめる必要があると協会内で協議の結果、命尾副会長を団長とするミッションが組織され、命尾副会長、林海外交流委員長、佐々木、辻同委員、山本創備大教授が訪中されることとなった。

これは先方より第1回中日粉体工業交流会議と位置付けられた。今回の交流によって、以後、中国顆粒学会の李静海理事長が窓口であることが確かめられた。

2003年11月、中国顆粒学会が主催者のひとつとなり、上海で国際粉体工業展が開催されることとなり、この展示会の委員長となった李静海理事長から展示ブースの提供、訪中国との交流の申し出があったので、命尾副会長、林委員長が訪中することとなった。この展示会への参加企業は100社程度、技術情報交流会には300人程度集まった。

2004年10月、8月に発足した中国専門委員会のお世話により、上海国際粉体工業展2004の協会ブースに、協会会員12社の共同出展が実現し、現地で協会が主催した交流会には約40名の参加者があった。土橋会長、命尾参与、林委員長、佐々木委員長のほか日本より多数の参加があり、顆粒学会からは李理事長の他、北京より郭慕孫名誉理事長夫妻が参加して交歓された。今回の出展社は190社、200小間で前回に比べ大きく伸びた。

2005年6月、上海国際粉体工業展2005には、前回と同様、土橋会長以下協会幹部が参加され、協会ブースに12社の共同展示があり、現地の交流会には40名程度が参加した。展示会後、麒麟ビール、ツムラの現地法人への見学ツアーが催されて約20名の参加があった。今回の出展は300社程度に伸びている。

2002年4月の命尾ミッション訪中時に設立準備中と伝えられた中国粉体工業協会は以然準備中であり、その後の詳しい事情は明らかではない。粉体工業はご存知のように幅広く、中国内で粉体あるいは顆粒の名前を冠した催しは各地にいくつもあり、規模も内容もまちまちである。当面、協会としては、中国専門委員会を協会の窓口とし、中国顆粒学会を先方の窓口として交流を続ける方針である。

米国粉体工業展

シカゴ・ローズモントで毎年5月に開催されている Powder & Bulk Solids Conference/ Exhi-

bition に2001年も森海外交流副委員長（同志社大教授）をコーディネータとして15名の調査団が参加し、展示会後、フロリダ大学の粉体研究センターを訪問した。2002年には、大阪大学・田中助教授をコーディネータとして11名の調査団が訪米し、展示会後は、シカゴの Particulate Solid Research, Inc. とイリノイ工科大学を訪問した。

出展社の減少傾向に対応するため、主催者の Reeds Exhibition 社は、従来の展示会は2年おきとし、2003年には、講習会を中心に小規模な展示会を付した International Powder & Bulk Solids Technology Forum をシカゴ近郊の St. Charles 市で開催した。協会よりはバルクハンドリング分科会と輸送分科会のコーディネータである松本教授（横国大）と富田教授（九工大）が派遣され、展示会の協会ブースへのアテンドとフォーラムへの参加をされた。

2004年5月にはシカゴ・ローズモントで従来どおりの展示会が開かれたが、調査団は派遣せず、協会ブース出展のため森副委員長と藤吉委員（石川島播磨重工）が派遣された。2005年には、Forum もなく、5月にジョージア州アトランタで、Southeast Powder & Bulk Solids Conference/ Exhibition が開かれた。

2006年5月には、再びシカゴ・ローズモントで展示会が開かれたので、バルクハンドリング分科会が主催して、松本教授をコーディネータに12名の調査団が訪米した。

このような Reeds Exhibition 社の動きの背景には、従来、機械工業の中心地であったアメリカ中西部の成熟化により、この種機械の取引が、従来の需要地であった南部へとウエイトが移っている事情があるようである。

欧州粉体工業展

ドイツ・ニュールンベルクの POWTECH は併催の TechnoPharm とともに従来どおり1年半おきに開催されている。2001年3月には POWTECH 2001が粉体学術会議 PARTEC2001とともに開催され、協会ブースへのアテンドのため森副委員長

と小川東京事務所長が派遣された。出展は約800社、入場者は一万五千人程度であった。

2002年10月の POWTECH2002には、土井会長、森副委員長以下総勢6名の調査団が派遣され、展示会後、ヒルシャウのアンバーガーカオリン工場とミュンヘン工科大学のポイケルト研究室を訪問した。2004年3月の POWTECH2004は PARTEC と併催で、金沢大学の大谷教授が協会ブースのアテンドのため派遣された。

2005年10月の POWTECH2005の開催に先立ち、協会の負担で入場券を無料で配布し、参加会員に35枚程度配布された。この回にも協会ブースのアテンドのため森副委員長が派遣された。出展は948社でかなり増えており、来場者は一万四千人程度であった。中国よりの出展と来場者、上海国際粉体工業展に POWTECH Pavilion を出そうというメッセ当局の中国への関心が今回の話題であった。

モンゴル

2003（平成15）年春、モンゴル科学技術大学より仙名教授（慶大）を通じて、資源利用の共同研究のために機器提供の要請があり、海外交流委員会より会員各社に呼びかけたところ、4社より寄贈を受けた。モンゴルの事情および共同研究の背景については、2002（平成14）年の秋期定例会合で仙名教授が詳しく報告された。

海外広報

海外交流委員会では協会と交流できる団体、機関、個人の研究者などのリストを作成し、毎年更新している。海外の展示会での協会ブースの活用と共に、海外交流のネットワークを今後どのように展開してゆくのか、アニュアルレポートの発行など協会の海外へのプレゼンテーションの問題と共に、協会の長期指針の一環として、今後共に検討してゆく必要がある。

規格関連

協会の関係する JIS 規格、ISO 規格、協会規

格については、**規格委員会**が引き続き継続的に制定・改訂の検討を行い、必要に応じて年度内の臨時委員会を編成して、規格原案の審議を行い、経済産業省や（財）日本規格協会と連携して規格の制定・改訂を行っている。このようにして毎年数編から十数編の規格が制定・改訂され、制定・改訂された規格は APPIE NEWS 紙上で協会会員に開示されて、購入希望の会員が購入する際には、割引価格の適用を受けることが出来る。

超微粒子計測の規格化に関しては、引き続き **ISO/TC24/SC4小委員会**：超微粒子評価分野の国際規格適正化調査研究小委員会、が担当して国際的連携のもとに検討をすすめ、幹事国業務を2002（平成14）年6月、ドイツより移管して運営し、2006（平成18）年1月、米国に引き継いだ。デルフト工科大学時代より、この事業に関係の深かったフロリダ大学の B. Scarlett 教授は2004年9月2日（木）に逝去され、10月29日デルフト工科大学で開かれた追悼式に SC4小委員会 木村淳幹事、森教授（同大）他の方が参列した。

バグフィルターの性能評価に関する標準化については、引き続き**特別委員会**を組織し、経済産業省と NEDO 新エネルギー・産業技術開発機構の委託を受けて、作業を推進している。

粉塵爆発委員会は（財）産業安全研究所と共同して「爆発圧力放散設備技術指針」の検討を行い、完成後2005（平成17）年6月（財）産業安全研究所より発行された。

規格委員会 内海良治委員長は2006（平成18）年3月、春期定例会合の折、「粉体技術の標準化戦略」と題して講演いただき、協会の規格・標準に関する活動について、幅広く展望いただいた。

標準粉体

製造事業部門の標準粉体の販売は、過去5年間の平均販売高を100として、2001（平成13）年度は101、2002（平成14）年度は112、2003（平成15）年度は140、2004（平成16）年度は139、2005（平

成17) 年度は145と順調に伸び、海外への出荷も多い。この背景には、需要先である自動車工業が活況であり、海外に日本企業が伸びていることがあると思われる。

2004(平成16)年4月には、検定用粒子 MBP 1-10, MBP10-100が新たに販売メニューに加わった。

教育講座

粉体入門講座は新たに、2時間の6講義を2日にまとめた、粉体入門セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲを組織し、一ヶ月おきにひとつずつ三ヶ月をかけて連続講義して、初心者が粉体技術の全貌を把握できる新方式を採用し、2004(平成16)年には京都、2005(平成17)年には東京で実施した。各講義により難易の程度は違うが、新方式は受講者と派遣元の企業の双方より好評を戴いている。

国際的なテロ対策の一環として、武器などに転用される可能性のある機器・材料類の輸出管理が

厳しくなっているので、これに対応する経営講座を東京と京都でたびたび開いている。分科会が主催される専門講座は一時少なかったが、だんだんと復活してきた。さらに、実習付、演習付の講座も増えてきた。

おわりに

以上のように、この5年間はいろいろと変化の多い期間となった。変わり行く環境に適応するため、実際面での対応の集約が結果として大きなものになった。各々の活動への協会会員の篤志による尽力を多としたい。

変わり目の時代を象徴するように、久しぶりに学出身の会長を迎えて、産学協同を旗印とする協会は原点に戻り、新しい創業の時代に入った。実績に裏付けられた自信を持って、固い信頼に結ばれ、広い展望の下に新しい時代を築いてゆきたい。

(APPIE NEWS No. 142-204による 執筆者 小浜弘幸)

主 要 事 項 年 表

月・日・（曜）

事 項

2001（平成13）年

- 3月19日（月） 京都事務所（本部）移転、執務開始
- 3月22日（木） 第5回理事会にて委員会の業務分掌の明文化承認
- 3月27日（火）－29日（木） POWTECH2001（ニュールンベルク）に森教授、小川東京事務所長派遣
- 5月8日（火）－10日（木） 2001米国粉体工業展（シカゴ）に調査団15名
- 5月24日（木） 第20回通常総会、天野氏より土井修氏に会長交代
- 10月12日（金） 微粒子ナノテクノロジー分科会発足
- 10月28日（日）－29日（月） 2nd Int'l Cleanable Filter Symposium（大阪）

情報ネットワーク委員会は本年度で廃止

焼成・反応分科会、シミュレーション分科会は本年度で活動終息

2002（平成14）年

- 3月13日（水）－15日（金） China Powder2002（北京）に協会ブース出展
- 4月19日（金）－21日（日） 第8回中国粉体工程学術会議（北京）に命尾副会長以下5名参加
- 5月7日（火）－9日（木） 2002米国粉体工業展に調査団11名
- 5月21日（火） 第21回通常総会、役員改選
- 6月1日（土） TC24/SC4幹事国業務をドイツより移転
- 6月30日（日） 佐藤専務理事退任
- 7月1日（月） 小川専務理事、辻事務局長就任
- 7月21日（日）－25日（木） WCPT4粉体工学国際会議（シドニー）
- 9月1日（日） 東京事務所に国際幹事業務など3名非常勤で就任
- 10月8日（火）－10日（木） POWTECH2002に土井会長以下調査団6名
- 11月12日（火）－15日（金） 国際粉体工業展2002、タイ国調査団来日
- 11月13日（水）－14日（木） 工業晶析国際シンポジウム（幕張メッセ）
- 12月5日（木） 木曜会で「協会のこれからと産学連携のあり方」シンポジウム、基調講演とパネルディスカッション

IT化の推進、ホームページⅡの立ち上げ

標準粉体の売り上げ前年比10%増し

2003（平成15）年

- 3月3日（月）－31日（月） 会員専用ホームページのためのIDパスワード配布
- 4月1日（火） 会員専用ホームページⅡのスタート
- 4月16日（火）－18日（金） 名古屋粉体工業展2003（吹上ホール）
- 5月1日（木） モンゴル科学技術大学への機器寄贈呼びかけ

5月6日（火）－8日（木）	新方式米国粉工展 Powder & Bulk Solids Technology Forum (St. Charles) へ松本・富田両コーディネータ派遣
5月19日（月）－24日（土）	ACHEMA2003（フランクフルト a.M.）
6月4日（水）	経営講座「キャッチオール規制にどう対応すべきか」
10月14日（火）	経済産業大臣より工業標準化貢献者表彰を協会が受賞
10月21日（火）－24日（金）	粉体工業展・大阪2003
11月29日（土）－1日（月）	上海国際粉体工業展2003へ命尾副会長以下4名参加
12月17日（水）－19日（金）	APT2003アジア粉体工学シンポジウム（ペナン）へ、土井会長以下28名の参加ツアー

平成15－17年度 フィルター標準化研究受託
標準粉体売り上げ 前年度比25%増

2004（平成16年）

1月23日（金）	分科会連絡会議を新方式で運営
3月16日（火）－18日（木）	POWTECH2004大谷教授派遣
4月1日（木）	検定用粒子 MBP1-10, MBP10-100を発売開始
5月4日（火）－6日（木）	2004米国粉体工業展、森副委員長、藤吉委員派遣
5月9日（日）－11日（火）	中日製剤技術交流会（新竹） 参加者：台湾210、日本81、シンガポール3
5月20日（木）	集じん分科会百回記念大会
5月25日（火）	第23回通常総会、役員改選、土井氏より土橋健夫氏に会長交代
8月3日（火）	第1回常務会、新発足
8月3日（火）	中国専門委員会 発足
9月2日（木）	Prof. Brian Scarlett 逝去、享年66歳
10月12日（火）－14日（木）	上海国際粉体工業展2004、協会ブースに12社共同出展、土橋会長ほか参加、協会関係参加者約40名
11月4日（木）	経営講座「輸出管理制度とその対応 Part 2」
11月9日（火）－12日（金）	国際粉体工業展2004 国際粉体技術フォーラム（計測、晶析、微粒子ナノ）、SC4国際会議、Cleanable Filter 国際シンポ、併催
12月3日（金）－4日（土）	ICBTT2004経営と技術移転国際会議にタイ粉体工学センターの10年をタワチャイ教授が報告（イギリス・中部ランカシャー大学）

粉体入門セミナーⅠ、Ⅱ、Ⅲを新方式で実施
KFPT 機能性微粒子材料創製のための基盤技術開発事業（けいはんな）本年1月発足、プロジェクトの内容を日高教授（同大）が12月の木曜会で説明

2005（平成17）年

2月4日（金）	矢澤英雄顧問 逝去、享年86歳
---------	-----------------

5月24日（火）	第24回通常総会、京都・東京両事務所の業務分担変更、2専務理事制発足、辻専務理事就任
6月1日（水）	京都事務所（本部）を以後、京都・協会本部と呼称
6月13日（月）－15日（水）	上海国際粉体工業展、協会ブースに12社共同出展、土橋会長ほか約50名参加
6月30日（木）	「爆発圧力放散設備技術指針」発行
7月15日（金）	分科会活動に対するアンケート調査実施
9月9日（金）	元常務理事 大川原嘉平氏 逝去、享年86歳
9月28日（水）	「先端粉碎技術と応用」刊行
10月11日（火）－13日（木）	POWTECH2005森副委員長 協会ブース出展、参加会員に協会より入場券を無料配布
10月18日（火）－21日（金）	粉体工業展・大阪2005
10月20日（木）－22日（土）	高温ガス精製国際会議（インテックス大阪）
11月11日（金）	専門講座「粉塵爆発」（東京ガーデンパレス）
11月17日（金）－18日（土）	演習つき専門講座「基礎から学ぶ最新の晶析技術」（ビラフォンテーヌ汐留）
「サブミクロン及びナノ領域における検定用粒子の標準化事業」受託	
2006（平成18）年	
1月1日（日）	SC4幹事国業務を U.S.A. に移管
1月20日（金）	分科会連絡会議にて、新たに制定された「分科会功労賞」8名受彰
2月15日（水）－16日（木）	実習つき専門講座「粉体微粒子のキャラクタリゼーション」（けいはんな）

会 員 数 の 推 移

年 度	2001 (平成13)	2002 (平成14)	2003 (平成15)	2004 (平成16)	2005 (平成17)
法人会員					
期末在籍数	298	289	279	272	259
入会数	14	14	9	5	3
退会数	15	23	19	12	16
個人会員					
期末在籍数	72	72	75	74	74
入会数	13	0	3	2	4
退会数	8	0	0	3	4
賛助会員					
期末在籍数	10	10	10	10	10
入会数	1	0	1	0	0
退会数	0	0	1	0	0

粉 体 工 業 展

粉体工業展・大阪2001、11月6日（火）－9日（金）INTEX 大阪1、2号館

出展 142社・520小間 来場者 44,566名

第18回科学機器展、バイオフィォーラム OSAKA と同時開催

国際粉体工業展2002、11月12日（火）－15日（金）幕張メッセ9、10、11号館

出展 208社・814小間 来場者 61,135名

プラスチック加工技術展と平行開催

第2回名古屋粉体工業展2003、4月16日（水）－18日（金）吹上ホール

出展 22社・55小間 来場者 3,065名

第19回最新科学機器展、第7回計量計測総合展、液体清澄化技術展2003と共催

粉体工業展・大阪2003、10月21日（火）－24日（金）INTEX 大阪1、2号館

出展 130社・500小間 来場者 40,785名

全科展 in 大阪2003（6号館）と平行開催

国際粉体工業展2004、11月9日（火）－12日（金）幕張メッセ9、10、11号館

出展 234社・823小間 来場者 60,498名

平行開催の展示会なし

粉体工業展・大阪2005、10月18日（火）－21日（金）INTEX 大阪1、2号館

出展 201社・560小間 来場者 43,752名

全日本科学機器展 in 大阪（6号館）と平行開催

分 科 会 活 動

	2001(平成13)年度		2002(平成14)年度		2003(平成15)年度		2004(平成16)年度		2005(平成17)年度		
	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	開催回数	参加者数	登録者数
バルクハンドリング分科会	4回	206名	4回	135名	4回	140名	4回	173名	4回	155名	144
粉碎分科会	3回	70名	3回	59名	3回	73名	3回	55名	3回	64名	79
									「先端粉碎技術と応用」刊行		
分級ふるい分け分科会	3回	69名	2回	72名	2回	73名	2回	55名	2回	22名	135
乾燥分科会	2回	41名	2回	60名	2回	45名	2回	50名	2回	42名	80
集じん分科会	4回	124名	2回	115名	3回	81名	3回	154名	3回	79名	82
							百回記念大会		高温ガス精製国際会議		
混合・成形分科会	3回	81名	3回	80名	3回	86名	2回	34名	3回	64名	71
造粒分科会	3回	112名	3回	117名	2回	95名	3回	113名	3回	118名	243
							関口寺小屋造粒教室				
計装測定分科会	2回	69名	2回	58名	2回	80名	2回	60名	2回	76名	94
			検定用粒子の検討								
湿式プロセス分科会	2回	38名	2回	31名	2回	27名	3回	57名	1回	10名	71
焼成・反応分科会	3回	69名									
粒子加工技術分科会	3回	127名	3回	85名	3回	220名	3回	224名	3回	180名	84
							中日粒子設計シンポ				
輸送分科会	2回	45名	3回	76名	3回	89名	3回	56名	3回	82名	84
					専門講座「輸送の基礎」		専門講座「粉塵爆発」				
流動化分科会	3回	151名	2回	82名	2回	100名	2回	37名	2回	27名	42
	ガス化溶融炉シンポ				ガス化溶融炉シンポ		環境エネルギー・流動化分科会に改称				
シミュレーション分科会	2回	34名									
晶析分科会	3回	96名	4回	235名	3回	83名	4回	172名	2回	46名	59
			国際フォーラム				国際フォーラム				
電池製造技術分科会	3回	279名	3回	232名	2回	133名	2回	81名	2回	92名	150
リサイクル技術分科会	3回	133名	3回	107名	3回	172名	3回	79名	3回	58名	200
電子写真技術分科会	2回	80名	2回	83名	2回	108名	2回	87名	2回	70名	94
									実習つき専門講座		
食品粉体技術分科会	3回	101名	2回	87名	3回	86名	3回	73名	3回	60名	108
微粒子ナノテクノロジー分科会	2回	70名	2回	67名	3回	90名	2回	48名	2回	62名	82

委員会の推移

	2001（平成13）年度	2002（平成14）年度	2003（平成15）年度	2004（平成16）年度	2005（平成17）年度
常 置 委 員 会	総務委員会 土橋，辻，筒井	—，杉田，—	—，—，大川原武	大川原，杉田，渡邊	—，—，—
	粉体と工業誌編集委員会 伊ヶ崎，山田	—，—	—，—	—，—	—，—
	推薦審査委員会 命尾，増野	—，—	—，向阪	—，—，真鍋	—，—，—
	粉体工業展委員会 土井，渡部，真鍋	—，—，—	—，—，—	土橋，—，—	—，谷本，—
	東京国際粉体工業展委員会 渡部，鈴木，谷本，大川原正	渡部，谷本，大川原正	—，—，—	—，—，—	谷本，大川原正，矢澤
	大阪粉体工業展委員会 真鍋，島田，加藤	—，—，—	—，—，—	—，—，—	—，—，—
					名古屋粉体工業展委員会 加藤，清川，杉山
	分科会運営委員会 向阪，伊ヶ崎，杉田	—，—，—	—，—，—	江見，—，—	—，—，—
	海外交流委員会 林，藤井，森	林，森	—，—，中川	—，—，—	—，—，—
					中国専門委員会 佐々木
規 格 ・ 標 準 委 員 会	情報ネットワーク委員会 辻，杉田				
	人材育成委員会 大川原正，西村	—，—	—，—	—，—	—，—
	標準粉体委員会 増田，吉田	—，—	吉田，森	—，—	—，—
	規格委員会 内海，金岡，増田	—，—，—	—，—，—	—，増田	—，—
	ISO/TC24国内委員会 金岡，内海	—，—	—，—	—，—	—，—
	SC 1，3，7小委員会 内海，日高	内海			
	SC 4小委員会 金岡	—	—	大谷	—
	粉塵爆発委員会 榎本，松田	—，—	—，—	—，—	—，—
	*（液相沈降法） 金岡，内海	*（フィルター性能評価） 金岡，和田，米田	**（試験用粉体，粒子） 増田，内海	**（試験用ふるい） 内海	
	*（試料作成） 金岡，内海	*（粒子径測定，光子相関法） 森，内海	* JIS 原案作成委員会	** JIS 改正委員会	
臨 時 委 員 会		名古屋粉体工業展委員会 加藤，牧野，杉山			
	フィルター標準化特別委員会 金岡，渡辺，和田	—，米田，—	—，—，—，田森	—，—，—，—	—，—，—，—
特 別 委 員 会					

※ 委員会
委員長，副委員長，副委員長
—，—，—
前年と同じ

協 会 役 員

2001（平成13）～ 2005（平成17）年度

	2001(平成13)年度	2002(平成14)年度	2003(平成15)年度	2004(平成16)年度	2005(平成17)年度
会 長	土井 修	_____	_____	土橋 健夫	_____
副 会 長	向阪 保雄	川島 嘉明	_____	_____	_____
専 務 理 事	命尾 晃利	_____	_____	真鍋 功	_____
理 事・顧 問 理 事	佐藤 文雄	小川 恵右	_____	_____	辻 義廣
理 事・顧 問 理 事	天野 牧男	向阪 保雄	_____	土井 修	_____
理 事・顧 問 理 事	増野鋼四郎	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	植田 玄彦	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	真鍋 功	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	川島 嘉明	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	島田 啓司	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	奈良 自起	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	大川原 武	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	大川原 正明	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	林 恒美	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	山本 英夫	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	辻 義廣	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	細川 悦男	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	加藤 文雄	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	曾田 正浩	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	高嶋 武志	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	辻 裕	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	土橋 健夫	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	増田 弘昭	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	松島 徹	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	渡部 尚	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	伊藤 公雄	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	金岡千嘉男	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	鈴木 誠之	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	中村 康彦	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	橋本 和也	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	長谷川善美	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	矢澤 明人	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	小川 恵右	_____	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	佐藤 文雄	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	伊ヶ崎文和	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	江見 準	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	田久保隆幸	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	竹内 和	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	豊見 昭	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	中川 幸也	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	矢萩 恭一	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	山田 幸良	_____	_____	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	_____	_____	赤堀 肇記	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	_____	_____	小瀬 公利	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	_____	_____	金子貫太郎	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	_____	_____	谷本 友秀	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	_____	_____	日高 重助	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	_____	_____	平井 修司	_____
理 事・顧 問 理 事	_____	_____	_____	渡邊 陽寛	_____
監 事	菅原 一博	_____	_____	_____	野城 清
監 事	中川 晴雄	_____	_____	_____	_____
監 事	豊田 隆三	_____	_____	_____	_____
監 事	矢澤 英雄	_____	_____	_____	_____
監 事	外山 茂樹	天野 牧男	_____	_____	_____
監 事	_____	増野鋼四郎	_____	_____	_____
監 事	_____	_____	_____	命尾 晃利	_____
監 事	_____	_____	_____	_____	佐藤 文雄

※ _____ は左に同じ、上より就任順

(社)日本粉体工業技術協会 最近の5年

2001（平成13）年 ～ 2006（平成18）年

平成18年11月21日

社団法人 日本粉体工業技術協会 総務委員会 委員長 大川原 武
作成委員 小浜 弘幸

URL: <http://www.ijnet.or.jp/APPLE/>

京都事務所（本部）〒600-8176 京都市下京区烏丸通六条上ル北町181
第5キョートビル

Tel 075-354-3581 Fax 075-352-8530

東京事務所 〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-11 種苗会館ビル
Tel 03-3815-3955 Fax 03-3815-3126